

令和 5 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

目白大学

目白大学大学院

令和 6 年 3 月

目白大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・人間学部（子ども学科）（幼）
- ・人間学部（児童教育学科）（小）
- ・社会学部（地域社会学科（中 社会、高 地歴、高 公民）
- ・外国語学部（英米語学科）（中 英語、高 英語）
- ・外国語学部（中国語学科）（中 中国語、高 中国語）
- ・外国語学部（日本語・日本語教育学科）（中 国語、高 国語）

目白大学大学院 教職課程認定研究科一覧

- ・言語文化研究科（日本語・日本語教育専攻）（中専修 国語、高専修 国語）

目次

| | | |
|-----|--|----|
| I | 教職課程の現況及び特色 | 1 |
| II | 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価 | 4 |
| | 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み | 4 |
| | 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援 | 8 |
| | 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム | 11 |
| III | 総合評価（全体を通じた自己評価） | 13 |
| IV | 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス | 14 |
| V | 現況基礎データ一覧 | 15 |

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：目白大学 目白大学大学院

(2) 学部名：人間学部（子ども学科、児童教育学科）

社会学部（地域社会学科）

外国語学部（英米語学科、中国語学科、

日本語・日本語教育学科）

研究科名：言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻

(3) 所在地：東京都新宿区中落合 4-31-1

(4) 学生数及び教員数

(令和5年5月1日現在)

| 学部・学科名 | 教職履修者数 | 学科全体学生数 |
|----------------------|--------|---------|
| 人間学部 子ども学科 | 537 | 555 |
| 人間学部 児童教育学科 | 167 | 175 |
| 社会学部 地域社会学科 | 56 | 336 |
| 外国語学部 英米語学科 | 28 | 284 |
| 外国語学部 中国語学科 | 1 | 162 |
| 外国語学部 日本語・日本語教育学科 | 53 | 169 |

| 研究科・専攻名 | 教職履修者数 | 研究科全体学生数 |
|----------------------------|--------|----------|
| 大学院 言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻 | 1 | 14 |

教員数： 大学 教職課程科目担当（教職・教科とも）108名／学部全体

135名

大学院 教職課程科目担当（教職・教科とも）6名／院全体8名

2 特色

目白大学

【教員の養成の目標（目指す教師像）】

目白大学教職課程の設置は、本学の建学の精神（主師親 / 国家・社会への献身的態度 真理探求の熱意 人間尊重の精神）を具現化するものであり、その趣旨は、人間尊重の精神を涵養した上で、人間に関する知識と人間を支援するための技能を併せ持った教師を養成し、もって 21 世紀の人間生活がより豊かなものとなるために主体的に貢献できる人材を世に送り出すことにある。さらに、人間は生涯にわたって成長・発達していく。こうしたことを理解し、その成長・発達を促進させ、社会に貢献できる人間を育成することが、本学の教員養成の趣旨である。

●人間学部：子ども学科

保育の本質・目的を理解し、実践能力を伴う幼稚園教諭

1. 深い子ども理解のもと、優れた実践能力を発揮する保育者
2. 豊かな感性と人間性をそなえ、子どもと保護者に寄り添える保育者
3. 社会の一員として責任ある行動をとれる保育者

●人間学部：児童教育学科

●社会学部：地域社会学科

●外国語学部：英米語学科、中国語学科、日本語・日本語教育学科

1. 企画・構想者としての教師（教職への強い使命感と誇りを持った教師）
2. 支援・援助者としての教師（高い実践力を持った教師）
3. 学習者としての教師（広い視野を持った教師）
4. 共創の担い手としての教師（現代的課題に対応できる教師）
5. 先導者としての教師（教育者としての知見と自覚をもった教師）

目白大学大学院

【教員の養成の目標（目指す教師像）】

- 高い日本語能力と外国語の実用的語学力さらに学問的再構成力を持った人材で教育者としての使命感の強い教員

大学院の教員養成に対する理念は、より広い視野に立ち教育の諸問題を追求し、地域の教育機関等との連携を図りながら、教育現場に高度な専門職業人を育成し、世に送り出す。また学部教育での学修や現場での経験の上に立ち、自己のもつ問題意識を深め、研究課題を進めていき教育の現場に送り出すことを目指している。また、他研究科に設置されている解放科目などを利用することで、カリキュラムの幅を広げ、より高度な見識をもつ教員を養成することを目指す。

本学が位置する新宿区は、特に外国人が多い集合地域であり、その子女が地元の公立小学校・中学校に多数在籍している。本研究科では、日本語学・日本語教育学の双方を修めた国語教員を養成することを目指す。さらに臨地研究で、現場との接触を深める機会も与えられるようになっている。この臨地研究の科目を通し、教職員や教職課程に学ぶ院生が地域に貢献している。臨地研究や教職科目を通して日本語学に対する深い知識、理解と共感を併せ持つ国語教員が地域社会への貢献に関する取り組みを積極的に推進していく。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

教職課程を持つ学科では、教職課程の目的を確認し、共有しており、目指す教員像やカリキュラムに関しては全教員が把握して共通理解が図られている。各学科の目指す教員像については、実習担当者が作成している「実習の手引き」等に明記されている。また、実習担当者間での会議内容についても、学科会議のたびに他教員に共有されている。さらに、教職課程の目的、目指す教員像やカリキュラムは、学生便覧に掲載し、学生が卒業時までいつでも確認出来るようにしている。

〔優れた取組〕

教職課程教育を通じて育まれるべきラーニング・アウトカムは、科目レベルではシラバスを中心に明示しており、また、カリキュラムレベルではシラバスナンバリングによる系統的履修を制度化している。

毎年 3 月末の次年度オリエンテーションおよび 4 月上旬の新入生オリエンテーションにて、学生が履修計画を立案する際に、教務委員およびクラス担任、教職課程センター員が協力して助言を行っており、学生に理解を深めるように導いている。その際、全体の履修について概観させた後で、特に教職課程履修者向けの詳しい説明を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

教職員が協力して、教職課程の目的と目標について学生に理解を深めるように務めているが、中には複雑な履修要件理解に注意が集中してしまう学生もあり、目的・目標の理解が十分徹底されているとはいえない。そこで、教職課程にかかわる教職員が一層協力し、学生が教職課程教育に対する目的・目標の理解を深めさせることが必要である。

教職課程センターが発足して 2 年目となり、以前より連携が取れてきていると感じる。今後、センター員である学科教員を通してさらに連携を深めていきたい

い。

ホームページなどを通しての教職課程に関する情報公開を積極的に行う必要があり、内容、回数について増やしていくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：学生便覧【履修要項（大学）】2023 年度入学生用、p.141
教員養成の目標（目指す教師像）
- ・資料 1-1-2：学生便覧【履修要項（大学）】2023 年度入学生用、pp.142-146
目白大学教職課程履修について（2023 年度入学生用）
- ・データ：目白大学ホームページ：<https://www.mejiro.ac.jp/>
 - 「大学の紹介」
 - ・目白大学の特色
 - ・建学の精神
 - ・アドミッション・ポリシー
 - ・カリキュラム・ポリシー
 - 「教職課程センター」

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

全学組織は複数の教職課程センター員を学科から配置し、教職課程センターとの連携体制を構築しており、教職課程科目の履修に関することや、実習中の諸事項については教職課程センターとも連携して対応にあたっている。また、教育実習に臨む上での履修要件を具体的に設定し、学科会議で確認し、教職課程センターで審議し承認している。各学科の教職課程の在り方を恒常的に自己点検・評価するために組織的に動いている。

学科の教員は、学科会議や、メーリングリストを活用して情報共有を密にしている。また、非常勤懇話会の開催などを通じて、専任および非常勤教員間でもコミュニケーションを図り、組織的な協働体制を構築している。

入学年度別の教職学生専用 Google classroom を設定し利用することで、学生への情報提供を行っている。

〔優れた取組〕

教員の教職課程へのかかわり方もより濃密になり、教職課程に関する話題や目配りは圧倒的に増加してきている。

所属学生に対しては、3月末、4月初めに実施している各学年の学科オリエンテーションにおいて、教職課程履修志望者のためのオリエンテーション時間を設け、目的や目標の周知も行う。また、4月中旬には、中高教職課程を履修する1年生向けに、教職を履修するための心構えや教員採用試験に向けた対策についてガイダンスを開催している。

教職課程センター以外に、カリキュラム・時間割ワーキンググループ及び教育実習に関するワーキンググループの2つを設置している。

必要に応じて教職課程センター員以外に別途協力を要請している。

◆教職課程センター

- ・教職課程の目標に関する確認と改善
- ・自己点検・自己評価の実施と公表化
- ・年報の作成
- ・教育実習受講要件
- ・科目等履修生受け入れ
- ・教員免許状取得者の確認
- ・教育課程費の納入
- ・教育実習前健康診断
- ・ホームカミングデーに該当するような事業の計画

◆カリキュラム・時間割ワーキンググループ

- ・教職課程の改善と検討
- ・教職課程に関するガイダンス
- ・教職課程の時間割調整(教務部と連携)

◆教育実習ワーキンググループ

- ・教育実習実施留意事項(コロナ禍の事前指導)
- ・教育実習における実習先との対応(事故やトラブル等の対応)
- ・教育実習実施園・校、実習期間等の確認
- ・教育実習事前指導事項の作成
- ・教育実習に関する危機対応マニュアル策定

〔改善の方向性・課題〕

FD や SD は外部の研修に学科の教員が参加している例が複数あるものの、教職課程に関する学科独自の FD にはつなげられていない。大掛かりな FD や SD という形式にまでは至っていない。職員が参加している教職関係勉強会での内容を教職課程センターの教員に情報提供をして FD や SD につなげている。施設・設備については特に ICT について課題があり、次年度以降開設する「ICT 活用の理論と方法」とあわせて拡充、充実が求められる。

教職課程の在り方は、自己点検・評価を実施し、学科会議での承認を経ているが、次年度への改善計画を具体的に策定する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1 - 2 - 1 : 学生便覧【履修要項 (大学)】2023 年度入学生用、
pp. 147-171 「各学科の教職カリキュラム」
- ・資料 1 - 2 - 2 : 2022 年度教職関係研修会等参加一覧
- ・データ : 目白大学ホームページ 「教職課程センター」
教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に関する情報
第 2 号関係
「教職課程センター構成員一覧」
「授業科目・担当教員」

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

教職を担うべき適切な学生の確保としては、毎年、3月末から4月初旬のオリエンテーション時に教職を目指す上での心構えや目標について説明をしている。1年次に教職課程登録申請書を提出させ、本人の明確な履修の目的を確認するようにしている。また、4年次の教育実習を履修する条件を設定している。

教員と学生、および教員同士の意思疎通を密接に図り、学生の人物像を適切に把握している。

〔優れた取組〕

教職を担うにふさわしい学生を受け入れる目的で履修上の基準を設定し、必要に応じて各科目の履修条件の制限に反映させている。

オリエンテーション時に教職課程の履修には強い意志が必要であるという点を強調している。児童教育学科では入試判定時に学科のアドミッション・ポリシーに従い、確かな基礎学力と学びに対する積極的な姿勢を保持している人を受け入れている。

〔改善の方向性・課題〕

学科によっては、教職を担うにふさわしい学生の募集・選考については、組織的な面談等を設けるには至っていない。1年次に教職課程を履修しながら、年次を追うごとに、履修を取りやめる学生がおり、免許取得まで履修し続けるよう働きかける必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：学生便覧【履修要項（大学）】2023年度入学生用、pp.132-133
「入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）」
- ・資料2-1-2：学生便覧【履修要項（大学）】2023年度入学生用、p.144
「2023年度入学生 体験活動及び実習科目等の受講条件」
- ・資料2-1-3：学生便覧【履修要項（大学）】2023年度入学生用、p.145
「2023年度入学生 4年次教育実習受講のためのその他の条件」

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

担任教員やゼミ担任が面談を実施し、学生の教職に対する意欲や適性及び学修状況の把握をし、今後の学修に向けての助言をするなど、学生に応じたきめ細やかな指導を行っている。また、教職課程履修者向けの LMS を用いた掲示やイベント案内、入職に関わる各種資料の提供や推薦募集などを迅速に行っている。教職課程の履修相談や入職に関する応募の相談や書類作成にも、適切に対応している。

〔優れた取組〕

学科内での教職キャリア支援として、就職を見据えた場面指導や模擬授業、指導案や論文練習の機会を設けている。ゼミ担当教員が個別に対応している例もある。

子ども学科では、キャリア支援について、就職課と連携を取りながら実施している。児童教育学科では、独自の「教員採用試験突破実力養成講座」を開設し、3年次から4年次にかけて系統的に教職に対する理解を深めさせ、教師を目指す学生のキャリア支援の取り組みや情報提供を組織的に行っている。その成果があり、今年度の教員採用試験の正規合格率は75%であった。

中学校・高等学校の教職課程では、キャリア支援のひとつとして、2022年度は「教職に就いている卒業生の話を聞く会」をオンラインで実施し、学科の卒業生である中学校教諭から教職の魅力や現場の実態について学生が学ぶ機会を設けた。教職に対する確かなイメージを学生に持たせることができた。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程を主とする学科とそうではない学科では支援の在り方に違いがある。教職課程を主としない学科では、履修を希望した学生が希望通り教員として就職できるような工夫を試みてはいるが、マンパワーの問題から理想どおりにはいかなないのが現状である。教職課程履修希望者数が少ないのに加え、教員免許状取得件数、教員就職率を高める策については妙案が見つからず、今後に向けた課題として残されている。

公立の幼稚園教諭の採用試験に合格する学生が出ておらず、今後の課題と言える。公務員採用試験の情報提供や、公立幼稚園への就職支援をしていきたい。

教育実習時の実習先訪問や研究授業見学はゼミ担当教員が担ってきたが、計算上だけでも同一ゼミに複数の教職学生がいることが想定されるため、教員側の負

担増や時間的困難が予想される。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2-2-1 : 教職課程センターホームページ

9) 教員養成係る本学の取り組み

- ・ 資料 2-2-2 : 目白大学ホームページ 子ども学科「資格・進路」
- ・ 資料 2-2-3 : 目白大学ホームページ 児童教育学科「資格・進路」

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

教職課程はすべてコアカリキュラムに対応させている。これから教師になるということに関連して、教育実習とも連携した科目展開を実施している。「教職カルテ」を活用することによって、教職課程で学んだことを振り返り、自分自身の課題を明確にするとともに、その課題解決のための方策について考えるようにしている。

また、カリキュラム・時間割ワーキンググループで、教職課程の改善と検討、教職課程に関するガイダンス、教職課程の時間割調整(教務部と連携)を実施している。

〔優れた取組〕

教科専門、教科指導、教職専門の各科目・領域間、さらに教職科目ではない学科科目とも連携し、系統的かつ独自性のあるカリキュラムを展開している。アクティブ・ラーニングは講義科目でも積極的に取り入れられており、学生自身の主体的学びを促す工夫を充実させている。学生が主体となって企画する行事を複数実施しており、それらの行事に参加することを通して、課題発見力、課題解決力、価値協働を育成するよう工夫している。

〔改善の方向性・課題〕

アクティブ・ラーニングを促す工夫は、模擬授業形式を始めとして随所に取り込んである。しかし、教職課程履修者が少ない科目では、学生間の協働による課題発見力・課題解決力、価値協働を育成する場については、設けることができない場合もあった。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：学生便覧【履修要項（大学）】2023年度入学生用、pp.56-95
- ・データ：目白大学教職カルテ

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

学科の豊富な専門科目を履修することによって、実践的指導力の養成につながっている。教職を進路とする学生の十分な資質・能力を養成する観点から、アクティブ・ラーニングや学生間協働の育成に関する工夫も進められている。

また、様々な体験活動の場を積極的に提供しており、理論と実践の往還の場となっている。教育実習の指定校とは、ゼミ担任が電話や実習校訪問を実施する制度的取り組みを学科として確立して推進している。

〔優れた取組〕

学校現場での優れた実践的経験を有する教員を含めた学科教員全体で教職課程教育について協議を進め、教職を目指す学生のために実務に関わる教育や指導（面接・論文および指導案作成等に関するグループ・個別指導）を実施している。

様々なフィールド＝現場へ学生を送り出している。地域社会学科では、博物館を引率教員の視点から見学してみるといったプログラムを実施しており、英米語学科では、学生も対象とした授業研究会への情報提供とともに参加を促している。教職履修学生の現場体験という実践性の点で有効な教育的意義があった「さまざまな体験活動とその省察による往還の機会の提供」を重視している。

児童教育学科が中心となり、中野区教育委員会及び東京都教育委員会との連携を行い、校長会や連絡会への出席を通じて連携強化も推進している。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程を主眼としていない学科では、「教育実習の指定校との連携」や「教育委員会との組織的な連携協力」については十分のとはいえず、事務方や児童教育学科に負うところが大きく、課題である。教員によって実習園・実習校・実習施設との連携への意識が異なるため、連携の在り方について学科教員間でさらに連絡を密にすることは課題である。

様々な教育実践的な情報については、現状では十分に提供できていない。学校や社会のニーズ、政策課題への対応については、具体的な方策が取られるまでには至らず、課題が残っている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：2022年度小学校体験活動体験先

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

目白大学教職課程センターでは、目白大学における教職課程及び教員養成にかかわる業務・指導を全学的に円滑に運営することを目的とした。

この目的を達成するために、以下の事業を行った。

- 幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭及び高等学校教諭の普通免許状を取得しようとする学生の指導や教員採用に関わるキャリア教育充実
- 教育実習園・教育実習校、実習受け入れ施設及び各教育委員会などと連携しつつ、学校教育を取り巻く現場の課題や国および地方自治体における教育政策の動向を見据えながら、教員養成に関わる研究・実践を積極的に実施
- 教育課程の実施状況に関する自己点検・自己評価と次年度の教職課程の改善

<具体的な業務内容>

○審議・検討等

- ・教職課程の目標に関する確認と改善
- ・自己点検・自己評価の実施と公表化
- ・年報の作成
- ・教育実習受講の条件
- ・教員免許状取得者の確認
- ・卒業生教職履修者の科目等履修生受け入れ
- ・教育実習実施留意事項（コロナ禍の事前指導）
- ・教育実習における実習先との対応マニュアルの作成（事故やトラブル等の対応）
- ・ホームカミングデーに該当するような事業の計画

○実施事項

- ・教職課程に関するガイダンスを4月に実施
- ・教職課程の時間割調整__教務部と連携し、教職科目と専門科目の重複をしないように調整した。
- ・教職教育課程費の納入
- ・教育実習前健康診断
- ・教育実習実施園・校、実習期間等の確認
- ・教員免許状取得者の確認

○今年度の重点的に実施した内容は下記の通りだった。

- ・学生のキャリア支援

教育委員会説明会及び時事通信社の講義の機会、DVD 教材の積極的活用を図る。

(4月16日(土)12時30分～12時55分 「教員採用ガイダンス ～中高免許学生向け～」を実施。3学科58人の学生が参加。)

・ 教職課程センターFD

教職課程センター独自に FD を実施することは難しい。そこで、文部科学省の通知に留意するとともに、私学教職課程研究協議会の研修会に参加。会議内で、参加者からの伝達研修を行った。(5月18日の会議において、「教員養成における性の多様性を考える」というテーマで実施)

○今後の課題として下記の通りとなり、次年度以降検討していく。

- ・ 教員養成を主たる目的としない学科における 教員間の更なる連携 (特に、中高免課程関係)
- ・ 教職履修カルテの効果的活用
- ・ 教育の情報化に対応した学内の教育環境の 整備 (特に、教育実習事前指導等における ICT 機器の活用に関する指導)

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

第1プロセス：教職課程センター会議において教職課程自己点検・評価についての情報共有及び実施方針を決定

第2プロセス：教職課程センター会議において各学科教職課程センター員へ自己点検・評価を依頼

第3プロセス：教職課程センター会議において各学科より提出された内容を確認

第4プロセス：教職課程センター会議に報告

第5プロセス：教職課程センター運営委員会に報告

第6プロセス：ホームページに掲載

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

| | | | | | |
|--|------------|------------|------------|--------------------------|---------|
| 法人名 学校法人 目白学園 | | | | | |
| 大学・学部名 目白大学 人間学部 | | | | | |
| 学科 子ども学科、児童教育学科 | | | | | |
| 1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等 | | | | | |
| ① 前年度卒業者数 | | | | 子ども学科 131名 児童教育学科 48名 | |
| ② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む) | | | | 子ども学科 123名 児童教育学科 42名 | |
| ③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える) | | | | 子ども学科 111名 児童教育学科 42名 | |
| ④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数) | | | | 子ども学科 55名 児童教育学科 30名 | |
| ④のうち、正規採用者数 | | | | 子ども学科 55名 児童教育学科 23名 | |
| ④のうち、臨時的任用者数 | | | | 子ども学科 0名 児童教育学科 7名 | |
| 2 教員組織 | | | | | |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | その他 () |
| 教員数 | 子 6 児 5 | 子 2 児 1 | 子 7 児 4 | 子 1 児 1 | |

| | | | | | |
|--|----|-----|----|----|---------|
| 法人名 | | | | | |
| 学校法人 目白学園 | | | | | |
| 大学・学部名 | | | | | |
| 目白大学 社会学部 | | | | | |
| 学科 | | | | | |
| 地域社会学科 | | | | | |
| 1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等 | | | | | |
| ① 前年度卒業生数 | | | | | 82名 |
| ② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む) | | | | | 72名 |
| ③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える) | | | | | 4名 |
| ④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数) | | | | | 0名 |
| ④のうち、正規採用者数 | | | | | 0名 |
| ④のうち、臨時的任用者数 | | | | | 0名 |
| 2 教員組織 | | | | | |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | その他 () |
| 教員数 | 5 | 2 | 1 | 0 | |

| | | | | | |
|--|-------------------|---|-------------------|-------------------|---------|
| 法人名 学校法人 目白学園 | | | | | |
| 大学・学部名 目白大学 外国語学部 | | | | | |
| 学科 英米語学科、中国語学科、日本語・日本語教育学科 | | | | | |
| 1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等 | | | | | |
| ① 前年度卒業生数 | | 英米語学科 63名 中国語学科 36名 日本語・日本語教育学科 37名 | | | |
| ② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む) | | 英米語学科 54名 中国語学科 21名 日本語・日本語教育学科 24名 | | | |
| ③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える) | | 英米語学科 7名 中国語学科 0名 日本語・日本語教育学科 9名 | | | |
| ④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数) | | 英米語学科 1名 中国語学科 0名 日本語・日本語教育学科 2名 | | | |
| ④のうち、正規採用者数 | | 英米語学科 0名 中国語学科 0名 日本語・日本語教育学科 0名 | | | |
| ④のうち、臨時的任用者数 | | 英米語学科 1名 中国語学科 0名 日本語・日本語教育学科 2名 | | | |
| 2 教員組織 | | | | | |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | その他 () |
| 教員数 | 英 1 中 1 日 5 | 英 3 中 3 日 1 | 英 6 中 0 日 2 | 英 0 中 0 日 0 | |

| | | | | | |
|--|----|-----|----|----|---------|
| 法人名 学校法人 目白学園 | | | | | |
| 大学・学部名 目白大学大学院 言語文化研究科 | | | | | |
| 専攻 日本語・日本語教育専攻 | | | | | |
| 1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等 | | | | | |
| ① 前年度卒業者数 | | | | | 5名 |
| ② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む) | | | | | 2名 |
| ③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える) | | | | | 0名 |
| ④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数) | | | | | 0名 |
| ④のうち、正規採用者数 | | | | | 0名 |
| ④のうち、臨時的任用者数 | | | | | 0名 |
| 2 教員組織 | | | | | |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | その他 () |
| 教員数 | 3 | 3 | 0 | 0 | |